

## 数を急いで教えることはない

いま述べたように、抽象的な言葉や文字というものは、幼児の思考力を越えているために理解しにくく、なかなか関心を持ちません。したがって、親の方から一方的に教えても、それに興味が持てないので、無駄な努力に終わります。数の場合もそうです。お菓子を配る時などを機会に教えるとよいでしょう。もっとも、教えるというよりも、使ってみせることです。実際に使ってみせれば、だんだんと理解していきます。

“教える”ということは、いろいろな物の実体がわかってそのうち「これは同じ仲間のもの、これは別の仲間のもの」というように、分類したり、同類を集めたりすることができて、初めてできることですから、一般に考えるほどやさしいことではありません。

世界的な数学者である岡潔先生は、「数は急いで教える必要はない。それよりも、幼児の接する実在や、それを表す言葉を、はっきり認識させることの方が先だ」と、おっしゃっています。それができなくて、数が理解できるはずがないからでしょう。

幼児の理解は、具象的なものから、具象物を通じて抽象する能力が育ち、自然と抽象的な言葉や文字の理解へと進んでいくものです。説明してやって、それでわかるというものではありません。